

熊本国際空港株式会社
代表取締役社長 山川 秀明



文化がつなぐ熊本と台湾

台湾積体回路製造（TSMC）の菊陽町進出を機に、熊本—台湾間で人の往来が活発化しています。阿蘇くまもと空港では昨年9月に台北線が新規就航し、スターラックス航空とチャイナエアラインの2社乗り入れが実現。現在は週12往復（スターラックス航空週7往復、チャイナエアライン週5往復）の運航です。インバウンドとアウトバウンドのいずれにおいても、高い搭乗率を維持しています。

人の動きがあることで、熊本からすれば台湾、台湾からすれば熊本に対する興味・関心の高まりも感じられます。この1年を振り返ってみると、熊本と台湾の商業施設などで就航先の地域をPRするイベントが開かれ、大きな注目を集めました。当社もこうしたイベントに数多く参加。このうち熊本市で昨年秋に開かれた「KUMAMOTO台湾祭」では、同じく出展していた台湾の航空会社の担当者が「熊本の方がひっきりなしに声をかけてくださる。関心の高さに驚いています」と話していたのが印象的でした。

こうした熱の高まりはなぜなのか。そもそも熊本と台湾の文化には、共通点が多いといわれています。中でも一番の共通点として私が感じているのは、家族で行動を共にすることです。阿蘇くまもと空港に身を置いていると、家族で飛行機に乗る人を見送ったり、出迎えたりしている姿をよく見かけます。搭乗前に家族みんなで食事をする、熊本在住の祖父母が土産を買って孫に手渡す、といったシーンもおなじみの光景です。県内各地の温泉施設によくある「家族湯」の文化からも、家族の結び付きの強さを感じます。同じく台湾の方も、休日には家族で観光や買い物に出かけ、団らんの時間を大切にしているように受

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、[入会手続き後、会員専用ページより](#)
アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)